

ビジョンバン フィリピン台風被害派遣

日本眼科医会
日本眼科学会
宮城県眼科医会

1

東日本大震災直後の 宮城県眼科医会の活動

ビジョンバン導入の経緯

詳細はこの資料をご参考になさってください

2

被災地支援

- 震災直後から活動

最初の2-3ヶ月

H23.5~H24.3

	往診のべ回数	巡回バス
宮城県眼科医会	153回	29回
東北大学	58回	-
計	211回	29回

- 昨年3月以降

- ビジョンバン(後述)による活動

3

支援物資:大震災直後

点眼薬	31,541本
コンタクトレンズ	12,570pack
眼鏡	2,080本
医療機器	16台

4

Mission Vision Van

- ハリケーン・カテリーナ時に作成
- フロリダ大Bascom Palmer Eye Instituteにて所有
- Mission Vision Van委員会・多くの眼科医療従事者・政治家らの力



5

Mission Vision Van

- 4/15～7/9までの3ヶ月間
- 63回(宮城県38回、岩手県25回)の出動
- のべ3437名に眼科医療支援

有事の際の眼科医療支援車両の必要性



6

ビジョンバン導入

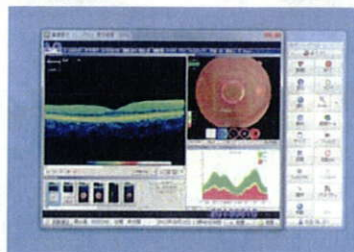
- 日眼医と厚労省の話し合い
- 宮城県地域医療復興計画(第3次補正予算)
 - 名目:「眼科医療支援車両」
 - 対象者:宮城県眼科医会
 - 交付金額:1億円(～平成27年度)
- 所有者:宮城県眼科医会
- 運用:東北眼科医会連合会



7

搭載医療機器

- 常備:通常診療可能レベル
 - 視力表(1.1m)
 - 非接触眼圧・屈折計
 - レンズメーター
 - 細隙灯顕微鏡(据置型+手持ち)
 - 遠隔診療システム
 - その他の小器具
- 用途に併せて機器変更可能
 - OCT(眼底カメラ一体型)
 - 自動視野計
 - 眼鏡作成機



8

活動内容：五本柱

- ① 応急仮設住宅団地主体に巡回健診
- ② 眼疾患啓発活動・健康相談
講演会、ビジョンバン見学、体験コーナー
- ③ 眼疾患疫学的調査
- ④ 活動地区における休日当番医的役割
- ⑤ 激甚災害時の
被災地眼科医療支援
日本眼科医会での対応



9

活動体制(平時)

- **眼科医**
 - 各県眼科医会で手配
 - 熱意ある眼科医のご厚意で
- **検査員**
 - 視能訓練士の会
 - 派遣眼科医の所属診療所勤務検査員
- **事務**



10

健診回数:初年度

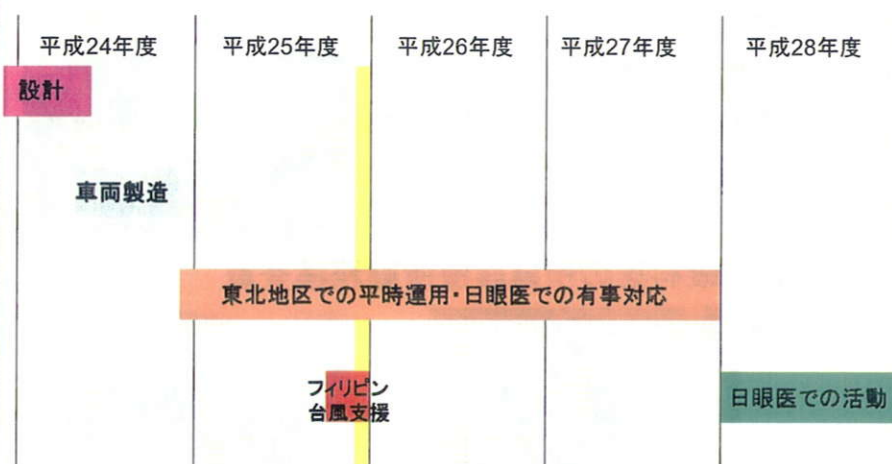
- 初稼働は平成25年3月17日
宮城県岩沼市にて

	総数 H25.3~H26.1
健診回数	42回
健診者数	2,053人
眼科医	のべ166人
検査員	のべ145人



11

ビジョンバン日程



12

フィリピンYolanda台風支援

- 東日本大震災からの経験
 - 眼科医療ニーズは表には出にくい
 - 極早期の対応では、眼科医療ニーズは低い



13

ビジョンバン派遣への不安

- 現地の治安
 - タクロバンでの暴動・略奪の報道
 - 盗難保険が設定できない
 - 寄贈救急車の盗難事件
 - タクシーへの転用事件あり
- 現地までの輸送手段
- 圧倒的に多い「反対の声」
- 現地眼科医に「やる気」はあるのか？
 - キーパーソンを探せるのか？

14

1月3-5日現地視察

- まずは現地を知ることからすべてがはじまる
- 参加者
 - 日本眼科医会 高野繁会長
 - Mission Vision Van 委員会 坪田一男慶應大教授
 - 宮城県眼科医会 加藤圭一副会長



15

1月3-5日現地視察

- フィリピン健康省
 - Herbosa事務次官
 - 正式派遣要請を受ける
- フィリピン眼科学会
 - 現地での医療活動の主体
 - 医薬品等の準備
- 日本大使館・JICA
- タクロバン市視察



16

フィリピンへ

- 空輸不能
 - 航空自衛隊: 不能
 - 民間機: 見つからず
- 海路で
 - 各所の協力
 - 日本赤十字様
 - 川崎汽船様
- 輸入手続きに大混乱



17

2月8-11日ビジョンバン到着時

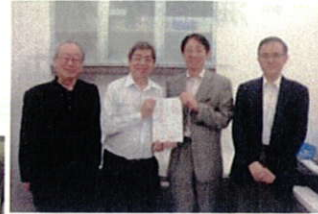
- ビジョンバンのマニラ到着に合わせて第2隊が現地訪問し各種作業を行う
- 参加者
 - 日本眼科医会
 - 白井正一郎 副会長
 - 日本眼科学会
 - 吉富健志 秋田大学教授
 - 宮城県眼科医会
 - 加藤圭一 副会長
 - ボランティア
 - 松隈信一郎氏



18

2月8-11日ビジョンバン到着時

- 引き継ぎ
 - 使用方法
 - ビジョンバンは使用
できず
- 輸入手続き
- 現地での協力依頼
- 契約関係



19

トラブルの連続

- 日本での手続き
 - 東日本大震災の復興を妨げないことも重要
 - 前例がない
- フィリピンでの通関問題
 - 国情の違い
 - 課税
- フィリピンでの国内輸送
 - 右ハンドル車輸入禁止: 800km余をトラック輸送
 - 積み下ろしができなくなった



20

最大の目的

- 派遣目的
 - 「レイテ島の眼科医療自体の復興」
 - 11人いたレイテ島の眼科医のうち、開業医は1施設のみ
 - 多くの眼科医がマニラ・セブに避難
 - 眼科医が戻っても診療する場所がない(台風被災)
 - ビジョンバンにより診療場所を提供し、地域復興を目指す



21

活動内容

- 健診場所:レイテ島・サマール島
- 眼科医、検査員:現地開業医主体
- 活動期間
 - 1/27 仙台出発
 - 2/6 マニラ港着
 - 2/17-3/1 レイテ島・サマール島
 - 3/11 マニラ港発
 - 3/28 日本着予定



22

活動実績



23

活動日数	10日間
健診者数	1,922名 (127-254名/日)
対応医師数	のべ25人
検査員数	のべ30人

